

平成31年度 事業計画書（児童養護施設）

自 平成 31年 4月 1日 社会福祉法人 聖 母 会
至 平成 32年 3月 31日

施設名： 天使の園

施設長 倉知 香美

印

1. 施設の概要（年度初）

所在地 〒061-1121 北広島市中央4丁目5-7	電話番号 011-372-3520 FAX番号 011-372-1894 メール tenshinosen@tuba.ocn.ne.jp ホームページ	定員数 児童養護施設 暫定定員62名 地域小規模児童養護施設 6名 児童家庭支援センター
----------------------------------	---	---

2. 本年度の基本方針

1) 平成31年度の基本方針と重点課題 <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が安心して生活できるよう環境を整える 本体施設の小規模化ユニット化に着手するスタートの年であるため職員全体に都度説明しつつ理解と協力を得て行っていく。 「ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）」を徹底して行い支援のスムーズ化を図りながらチームワークで育てていく。 性教育を継続して行う。 地域小規模児童養護施設の入所児の見直しをする。孤立しないよう本体施設とのコミュニケーションを図る 災害対策を具体的に検討する（特に停電時の電話、自家発電機） 	2) 平成30年度からの課題 <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が心地よく落ち着いて生活ができるよう環境を整える。将来のユニット化に向け、その前段階の試みとして幼児学童を一体化し生活空間を2階とし一貫した支援に取り組む。 「ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）」を徹底して行い支援のスムーズ化を図る。 性教育を継続して行う。 個別対応を重視する。 地域小規模児童養護施設が2年目に入り、人的確保を保証した上で円滑な運営ができるよう支援する。
---	--

3. 人材育成計画

1) 平成31年度の人材育成計画 <ul style="list-style-type: none"> 本体施設の小規模ユニット化への移行にあたり、5名新規採用した。新卒の若い職のため焦らず育てていく。副担当者として役割を持たせ平成31年は「慣れる」事を重点に置く。経験年数によって立場・役割を自覚すると同時に必要な研修への参加を促す。 横の繋がりが（同年代同士）、縦のつながり（先輩後輩）を大切にしつつ困難な時に相談できるような雰囲気づくりを心がける。風通しのよい職場環境（情報共有、自分の意見を表現できる場があるなど） 	2) 現在の課題 <ul style="list-style-type: none"> 人員は確保できているが20代の若い職員が多く中堅層とベテランが少ないため日常トラブル発生時などの判断力・決断力が弱い。リーダー的存在になる人材を育てている途中である。しかし若い職員の能力と可能性はまだ未知数なので希望も大いにある。個人の特徴が生かせるようコミュニケーションを図っていく。
--	---

4. 利用者処遇

1) 平成31年度の重点事項 <ul style="list-style-type: none"> 発達障害、知的障害の子どもたちが増えているため個別対応を重視する。入所児全体の中で中学生層が多く占めるようになった。思春期を迎え多感な年頃のため、また性的興味を現れることも意識し職員間の情報を共有しながら支援する。

5. 研修計画

1) 法人内研修

研修会名	研修内容	参加予定人数
聖母会職員研修会	聖母会の歴史について等	3名
聖母会施設長・事務研修会	就業規則・給与規程等の変更	2名

2) 施設内研修

研修会名	研修内容	参加サービス区分	参加予定人数
よりよいコミュニケーション研修	職員間のコミュニケーションを図る	児童養護施設	20名
関わりの難しい子の対応	発達障害等の理解を深める	児童養護施設	20名

3) 施設外研修

研修会名	研修内容	主催者	参加予定人数
児童福祉施設(指導員・保育士)研修会	児童虐待の理解と被虐待児との関わり方	北海道 社会福祉協議会	2名
人間と性教育研究協議会研修会	生活の中の生と性を考える	人間と性 教育研究協議会	2名
児童養護施設協議会職員研修会	児童虐待養護施設の現状と課題	北海道児童養護 施設協議会	2名
日本カトリック児童施設協会全国会議	カトリック児童施設のアイデンティティの継承	日本カトリック 児童施設協会	2名
児童養護施設協議会職員研修北海道支部	施設内虐待や不適切な関わりの防止と入所児童の権利擁護	北海道児童養護 施設協議会	2名
ファミリーソーシャルワーク研修会	子育て支援について	全国児童養護 施設協議会	4名

6. 職員に関する事項(平成31年4月1日)見込

1) 児童養護施設

		児童養護施設										
		合計	施設長	指導員	保育士	事務員	栄養士	調理員	心理士	看護師	相談員	嘱託医
児童養護施設	職員	32.5	0.7	11.8	12	2	1	4	1			
	有期・無期契約職員	3.1			1.3			0.8		1		
	派遣職員											
	嘱託医	0.1										0.1
	合計	35.7	0.7	11.8	13.3	2	1	4.8	1	1		0.1
	職員配置必要人員	20.8	0.7	12		1	1	4	1	1		0.1
地域小規模児童養護施設	施設必要人員	35.8	0.7	25		2	1	5	1	1	0.1	
	職員	4.2		1.2	3							
	有期・無期契約職員	0										
	派遣職員											
	嘱託医											
	合計	4.2		1.2	3							
児童養護施設 児童家庭支援センター	職員配置必要人員	4.4		1.4	3							
	施設必要人員	4.4		1.4	3							
	職員	1.3	0.3								1	
	有期・無期契約職員										2	
	派遣職員											
	嘱託医											
児童養護施設 児童家庭支援センター	合計	3.3	0.3								3	
	職員配置必要人員	2.3	0.3								2	
	施設必要人員	2.3	0.3								2	

合計職員数	職員	38	有期・無期職員	6	派遣職員	0	合計	44
-------	----	----	---------	---	------	---	----	----

備考

職員の兼務は、兼務割合で記入する。小数点第二位以下切捨て、小数点第一位まで記入。
 有期・無期契約職員及び派遣職員は常勤換算人数で記入。小数点第二位以下切捨て、小数点第一位まで記入。
 職員配置必要人員で、配置人数が必要で時間まで決められていない場合は、0.1と記入する。
 職員配置必要人員は国・市の人員。補助金、法外等で施設で申請する場合は含んで記入。
 嘱託医で、内科と歯科等届出している場合は、0.1+0.1=0.2となる。
 施設必要人員は常勤換算人数で記入。
 合計職員数は、常勤換算人数ではない。
 派遣職員欄には、業務委託に係る職員は算入しない。

7. 利用者に関する事項（平成31年4月1日～平成32年3月31日）見込

1) 児童養護施設

定員	稼働月数	利用予定	稼働率	合計	未満児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	小学校	中学校	高校生	専学
62	12	744	72.5%	540	24	12	24	12	0	216	192	48	12

1) 地域小規模児童養護施設

定員	稼働月数	利用予定	稼働率	合計	未満児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	小学校	中学校	高校生
6	12	72	100.0%	72	0	0	0	0	0	24	36	12

備考 利用予定とは、定員×稼働月数
合計は、月初日在籍者数 当年度4月1日の年齢。中途入園者は、入所月の年齢とする。
稼働率は、合計÷利用予定=%小数点第二位以下切捨て。

2) 児童養護施設 3年間比較表

	平成31年度見込	平成30年度補正見込	平成29年度実績
稼働率	72.5%	64.3%	73.8%

2) 地域小規模児童養護施設 3年間比較表

	平成31年度見込	平成30年度補正見込	平成29年度実績
稼働率	100.0%	100.0%	100.0%

備考 稼働率は、小数点第二位以下切り捨て。

8. 会議・委員会・避難訓練に関する事項

1) 家族会・ボランティア総会等

会議名	会議内容	年開催予定数
	該当なし	

2) 会議

会議名	会議内容	参加職種	年開催予定数
リーダー会議	事業計画及び中長期計画案の作成及び実施状況の確認。規則等変更案の検討など	施設長・各部代表	12回
職員会議	全職員の事業遂行に関する合議を回り職員の意志の疎通と円滑な運営を図る	全職員	4～5回
ケース会議	児童の自立支援計画の作成・問題を抱えている児童について話し合い支援方針を立てる	指導員・保育士・心理士	12回
給食会議	児童の健全な発育・発達を支える食事の提供に努めるため給食部職員と処遇職員で話し合う	栄養士・調理員・保育士	12回
部会議	部署で検討が必要な事項について話し合い共通認識と意志の疎通を図る	指導員・保育士	12回

3) 委員会

委員会名	委員会内容	参加職種	年開催予定数
防火管理委員会	児童の安全な生活を守るため各種災害対策	施設長・各部代表	2回
衛生委員会	伝染病疾患などの蔓延の予防・発生・防止に対応するための対策を検討	施設長・指導員・栄養士	2回
性と命を守る会	子どもが成長していく中で自分の成育歴・発達に伴う心身の変化をプロジェクトのメンバーが中心になって伝える	施設長・指導員・保育士	12回
苦情解決委員会	児童・保護者・地域住民からの苦情を解決するため児童の権利を擁護し処遇の向上のために体制を整える	施設長・指導員・保育士	随時
ハラスメント対策委員会	職員が心身ともに安心して働き続けることができるよう事例が発生した場合速やかに事態を把握し解決する	施設長・指導員・保育士	随時
公益通報対応委員会	不正行為などの早期発見と是正を図り正当になされた通報行為に対して通報者を保護する	施設長・指導員・保育士	随時

4) 避難訓練

避難訓練予定回数	内夜間想定避難訓練 予定回数	内消防署合同 避難訓練回数	内近隣等地域合同 避難訓練予定回数
12回	1回	1回	1回

9. 新規事業の開設・廃止・定員変更予定

開設・変更予定 年月日	開設・廃止 定員変更	事業名	内容
	該当なし		

備考 加算等の新規・変更等は記入不要

10. 契約に関する事項

単位：円

契約予定年月日	契約予定期間	契約サービス区分	契約の相手方	契約の概要	見積書 数	契約予定金額	理事会 申請
2019.3.31	2019.4.1~2020.3.31	児童養護施設	野村不動産 パートナーズ(株)	設備保守	1	5,198,256	○
2019.10.1	2019.10.1~2019.10.1	児童養護施設	野村不動産 パートナーズ(株)	止水加圧給水ポンプ整備	1	1,058,400	
2019.5.1	2019.6.1~2019.6.30	児童養護施設	榎本建設(株)	多目的ホール改修工事	3	8,272,800	○
2019.8.1	2019.9.1~2019.9.2	児童養護施設	キャノンシステム アンドサポート(株)	パソコン12台入れ替え	1	1,780,488	
2019.9.10	2019.10.1~2019.10.1	児童養護施設	ネットヨタ 札幌(株)	車両(ボクシー)	1	3,110,000	△

備考 事業年度に関わる契約について記載
 契約の相手方が入札等でわからない場合は、記入不要。
 給食・工事・器具・保守・保険契約については、契約予定金額の総金額が100万円以上について記載。
 12 補助金・受託事業については記入不要。
 新規リース契約を含む
 500万1円以上の理事会申請事項に○、300万1円以上500万円以下の理事長申請事項に△。

11. 補助金・受託事業(利用者負担金除く)に関する事項

1) 児童養護施設

単位：円

サービス 区分	交付機関名	交付及び使用目的	金額
児童養護施設	北広島市	児童手当	5,040,000
地域小規模 児童養護施設	北広島市	児童手当	600,000
児童養護施設	北広島市他	ショートステイ委託費	230,000
児童養護施設	北海道	一時保護委託費	300,000
児童養護施設	北海道	里親委託費	11,000
児童家庭支 援センター	北海道	運営委託費	8,828,000

備考 補助金事業収入(4331)・受託事業収入(4332)・その他の事業収入(4339)
の利用者負担額除いた事項を記載。

12. 借入金の状況

単位：円

サービス 区分	前年度末残高見込額	当年度借入金予定額	当年度返済予定額	当年度末借入金 残高見込み額	借入先	借入金用途
	該当なし					

備考 外部よりの借入金について記入。
借入先が違う場合、借入先毎に記入。

13. 施設整備状況 「固定資産・建設仮勘定・修繕費」

単位：円

サービス区分	施行名・品名	数量	目的及び理由	見積書数	金額	理事会申請
児童養護施設	多目的ホール改修工事	1	小規模グループケアに向け改修工事	3	8,272,800	○
児童養護施設	止水加圧給水ポンプ整備	1	劣化による整備が必要な為	1	1,058,400	
児童養護施設	2階廊下ドア取付工事	1	小規模グループケアに向け2階廊下ドアの取付	1	996,408	
児童養護施設	ノートパソコン	12	windows7保守終了の為入替	1	1,780,488	
児童養護施設	事務所コピー機	1	老朽化の為	1	864,000	
児童養護施設	車両(ボクシー)	1	老朽化廃車の為	3	3,110,000	△
地域小規模児童養護施設	ノートパソコン	1	老朽化の為	1	146,340	

備考 1件100万円以上は見積書を添付して下さい。(施設控のみ1部)
 修繕費は1件30万円以上の事項について記載して下さい。
 固定資産は1件10万円以上を記入して下さい。
 500万円以上の理事会申請事項に○、300万円以上500万円以下の理事長申請事項に△。

14. 予算作成にあたっての施設長所感

- ・ 本体施設の小規模ユニット化への移行にあたり定員数の調整を図っていく。中高生は個室の関係で難しいが、幼児を積極的に受け入れていきたい。また小規模化に関していただける加算を道庁に申請していく。5名を新規採用するがユニット化することで加算が増え人件費は対応できる。
- ・ 災害対策として電話・電気などの見直しをする。停電時でも使用できる携帯電話を法人契約で持つ予定である。また自家発電機(日常生活用)を検討する。
- ・ ホームページを開設し情報を開示していく。

社会福祉法人 聖母会 理事会 承認
承認年月日

社会福祉法人 聖母会
理事長 塩塚 俊子 印